

刊 行 の こ と ば

ここ1・2年の間に、「SDGs」（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）がテレビの報道番組や新聞・ネットニュースの記事で頻繁に取り上げられるようになりました。今、小・中学生が使っている教科書にも、SDGsを学習するページがあります。

2015年の国連サミットにおいて、国際社会全体の目標としてSDGsが採択され、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざして、2030年を期限とする包括的な17の目標です。その目標の4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」に「ESD」があります。ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

近年、世界には、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす、持続可能な社会を実現していくことをめざして行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育ということなのです。

国立教育政策研究所の「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」の中には、持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な「7つの能力・態度」として、

1. 批判的に考える力
2. 未来像を予測して計画を立てる力
3. 多面的・総合的に考える力
4. コミュニケーションを行う力
5. 他者と協力する力
6. つながりを尊重する態度
7. 進んで参加する態度

が示されています。そこに提示された7つの能力・態度を参考に、地域の実情や児童・生徒の発達段階に応じて、取捨選択したり、アレンジを加えたりしていくことが必要です。

特に、一昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響は、これまでの日常を「非日常」に大きく変化させました。そのような状況の中、全国の小中学生に1人1台の端末を配布して、時代の要請に応える学びをめざす「GIGA（Global and Innovation Gateway for All）スクール構想」が本格化しました。教育現場のICT化は、単にパンデミックや災害時の対応だけが目的ではなく、これまでとは根本的に異なる“個別最適化された学び”を実現しなければなりません。今後は、ESDと関連づけた取組が重要になると考えます。

昨年度末、総合教育会議において策定した「第3次和木町教育振興基本計画」は、この「GIGAスクール構想」や「町ぐるみ和木学園構想」を意識しており、ESDと大きく関わっていることを再認識しておきたいものです。

実は、「子は教師や親を敬い、感謝し、教師は子を讃え、親は教師を敬い、子を慈しむ」という『尊師親愛生』の精神を教育施策の大きな柱の一つに掲げている「町ぐるみ和木学園」構想は、SDGsの理念や目標を参考にしているからです。「みんなが生徒 みんなが先生」を合い言葉にしていますが、あらゆる立場の人が行動を起こさなければ、何も達成できません。私たち一人ひとりの小さな行動は、「町ぐるみ和木学園」や「SDGs」を実現するためにとっても重要なものであり、Society 5.0の達成にもつながります。

第一次及び第二次の「和木町教育振興基本計画」の成果と課題を踏まえ、今後も和木町教育が持続可能な発展をしていくよう教育行政を推進してまいります。

本年報をご高覧いただき、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、刊行のごあいさつといたします。

令和4年3月



和木町教育委員会

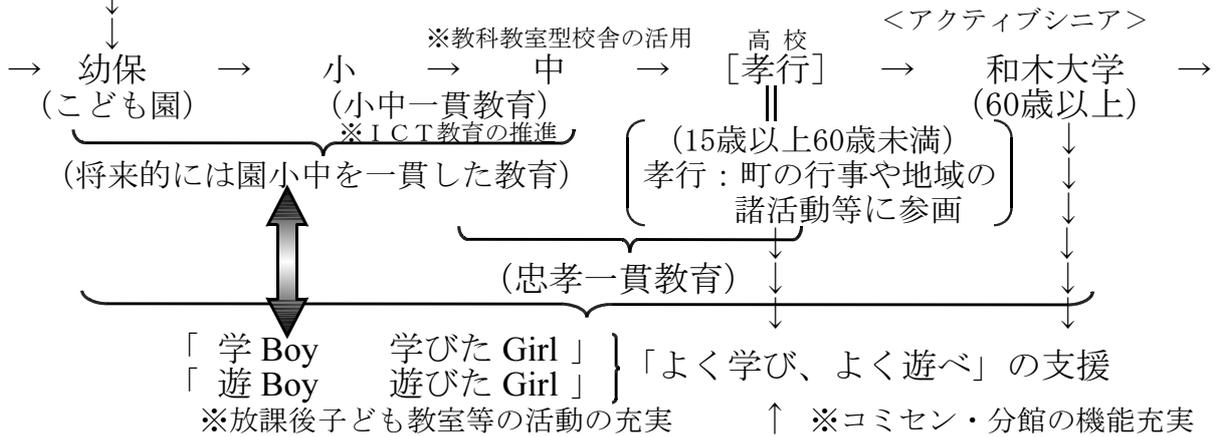
教育長 重岡良典

「町ぐるみ『和木学園』」構想

緑の風薫る文化のまち和木町

子ども子育て支援のテーマ
「わきは あったか 大家族」・・・教育・文化のまちづくり

『和木学園』で生涯学習



「コンビ学習」

特に、日本最初のコンビナート（露：комбинат, kombinat 意味は「結合」）とコンビ（英：combi, kombi コンビネーションの略 意味は「組み合わせ」）を組んだ学習支援体制づくりを行う。 **【和木町ならではの特色ある取組としたい】**

- ※ 小中高生対象の検定助成を、町民全体に広げる。
↓ (特に、「もの忘れ」の防止)
健康寿命の延伸につなげたい。
↑ (特に、「老化は足から…」の防止)
 - ※ 生涯スポーツの推進
(総合型地域スポーツクラブ、体育協会、保相センター等との連携)
 - ※ 国際教育 (ALTの活用、英語教育、日米交流事業 等)
 - ※ 土曜日や放課後の学習環境づくり (学校支援 等)
- ・・・など

地域協育ネット
と連携

教育方針 { 「わきあいあい (アクティブ・ラーニング) で学ぶ」 学校教育の推進
「緑の風薫る文化のまち和木町」を支える生涯学習環境の整備
「尊師親愛生」の教育風土の醸成

「我以外、皆我師也」

文豪 吉川 英 治さんが好んで使っておられたこの有名な言葉は、人が人らしく生きていこうとするところに、教育の営みが成立するという考え方である。

隣の家のおじさんも、百歳を超したおばあちゃんも、その生きる姿を通して教育を行っている。庭にはえている草も、道にころがっている石も、みんな教材になる。

和木町には、山がある。川も海もある。山青く水清らかな豊かな自然と最先端の技術をもつ化学工場も、みんな教材であり、私たちの師である。

学校とか家庭・地域という垣根を越えて、町全体で、みんなが互いに学び合うという町づくりをめざしたい。

目 次

刊行のことば

◆ 令和3年度和木町教育方針	1
----------------	---

I 学校教育

1 本年度のあゆみ	17
2 園小中連携	25
3 和木町ICT	27
4 和木こども園	29
5 和木小学校	39
6 和木中学校	51
7 給食センター	64

II 社会教育

1 本年度のあゆみ	68
2 文化会館	81
3 総合コミュニティセンター	87
4 図書館	100
5 体育センター	105
6 美術館	113

◆ 教育委員会関係資料	119
-------------	-----

◆ 教育委員会関係者名簿	
--------------	--